

谷戸沢処分場でトウキョウサンショウウオの越冬幼生を確認
(越冬幼生とは・・・幼生の姿のまま冬を越す個体のこと)

東京たま広域資源循環組合（管理者：東村山市長 渡部 尚）が管理する谷戸沢廃棄物広域処分場内（東京都日の出町）では、生息数が激減しているトウキョウサンショウウオを、処分場が設置される以前より保全を行っています。今回、その一環として行っている水生生物調査で、珍しい大きな越冬幼生のかわいい姿が確認できましたのでお知らせします。

ウーパールーパーと呼ばれるかわいいメキシコのサンショウウオをご存じの方も多いかと思いますが、トウキョウサンショウウオも幼生の頃はウーパールーパーにそっくりです。卵からかえった幼生は水中で大きくなり、通常は秋までに変態し上陸しますが、ごく一部、幼生のまま水中で越冬する個体もいます。このようなトウキョウサンショウウオの珍しい姿が確認できるのも、谷戸沢処分場設置以前の昭和58年より保全を行ってきた成果といえます。今後とも、当組合では処分場の適切な維持管理を行い、トウキョウサンショウウオの生息地を守っていきます。



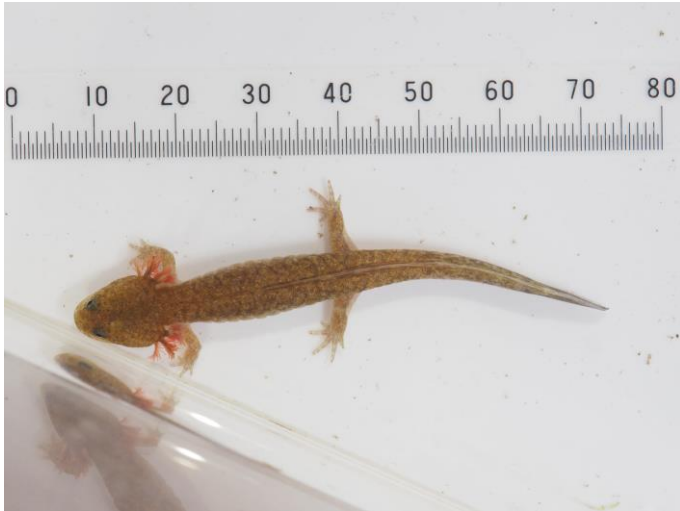
トウキョウサンショウウオの越冬幼生
(12月5日撮影)

当組合では、処分場が外部環境へ与える影響を調べるため、生態モニタリング調査を昭和58年より継続して実施しています。その調査では、処分場は適切な管理を行ってきた結果、フクロウなどが生息できる里山的環境が再生していることが確認されています。

◆循環組合ホームページ：<https://www.tama-junkankumiai.com/>

連絡先 東京たま広域資源循環組合
環境課 松尾、井上、北澤
TEL：042(597)5581

トウキョウサンショウウオの越冬幼生（12月5日撮影）



通常のとウキョウサンショウウオの姿
成体の姿



上陸直前の幼生の姿



必要があれば、写真を提供することができます。